

断面修復工 九州フィールド対象NETIS技術等選定一覧

令和6年3月現在

 工法比較対象技術
 新規対象技術(調査中)
 削除技術

※「活用状況(本省)」欄にNETIS掲載期間内の大きな活用件数を記す。☆=500件以上、◎=100件以上、○=50件以上、□=20件以上 (注)NETISホームページへ移動しない場合は、ファイルをダウンロードしてご使用ください。

整理番号	技術名	NETIS番号	A V G	アブストラクト	区分	分類1 Lv.1	分類2 Lv.2	分類3 Lv.3	分類4 Lv.4	技術の位置づけ	活用効果評価	活用状況(本省) %	掲載期間終了技術(終了時期)	生産供給体制(機械保有台数等)	備考	NETIS HPリンク先(注)
1	N-SSI工法	KK-100009	VG	本工法は、飛来塩分や凍結防止材による塩害で劣化したコンクリート構造物に対する高防錆型断面修復工法である。材料は、「塩分吸着剤」を添加したポリマーセメント系で構成され、補修部位の劣化状況や塩化物イオン量に応じて材料を加減することにより、コストを削減できる。	工法	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工		[活用促進](2019.9.19~)	有	○ (R3年3月)				
2	高炉スラグ・繊維入りポリマーセメントモルタル「エフモル」	HK-110049	VG	高炉スラグ微粉末・繊維材を配合したポリマーセメントモルタル「エフモル」は、高炉スラグの特長である潜在水硬性により、耐塩害性能・耐凍害性能・化学抵抗性に優れた補修材料です。また繊維を混入しているため、初期乾燥収縮ひび割れを抑制します。	材料	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工			有	□	○ (R4年3月)			
3	NOショット	QS-150001	VE	本技術は、コンクリート構造物の補修補修工事に用いる断面修復材である。従来の細骨材として使用していた天然砂の代わりに、高炉水砕スラグを独自の球形化技術にて加工し、フミンクスモルタル化した。本技術の活用により耐久性、耐酸性などの品質向上が期待できる。	材料	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工		[活用促進](2019.11.14~)	有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-150001%20
4	コンクリート構造物の断面修復材料「コムラテックス」	QS-150017	VE	超速硬化ポリマーセメントモルタルまたはコンクリートにより、劣化損傷したコンクリート構造物の断面修復を行う技術で、従来は、超速硬化コンクリートで対応していた。本技術の活用により、乾燥収縮が小さく、付着性・耐久性に優れた断面修復が可能である。	材料	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工		[活用促進](2019.5.16~)	有			汎用機械により供給(繰り混ぜ可能)		https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-150017%20
5	塩害対策用断面修復材「テックコロフィックス」	KT-150080	VR	本技術は、ポリマーセメントモルタルに塩化物イオン固定化剤を添加しコンクリートの塩害防止性能を高めた断面修復材で、従来はポリマーセメントモルタルで対応していた。本技術の活用により、塩害劣化を大幅に抑制できるため、耐久性の向上が図れます。	材料	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工			有					https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-150080%20
6	コンクリート構造物の断面修復乾式吹付け工法	CB-020040	VG	ポリマーセメントモルタル乾式吹付け工法はコンクリート構造物の断面修復と補強を独自のサイロシステムを用いて、短期間に施工する優れた工法である。	工法	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工		[活用促進]	有	○ (H29年4月)	吹付け機:国内55台(うち九州5台)			
7	LCユニット工法	SK-170011	A	本技術は、容易に調節可能なスペーサーとユニット化された鉄筋、及び高品質モルタルを組み合わせ合わせた補修・補強工法であり、従来は現場組立の鉄筋とポリマーセメントモルタルで施工していた。本技術の活用により、工程の短縮及び経済性の向上が図れる。	工法	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工						工場・販売拠点:高知県、大阪府、埼玉県 納期:3~7日 特殊な機械は使用しません。	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=SK-170011%20	
8	繊維補強超速硬化ポリマーセメントモルタル「リフレモセルSF」	KT-170058	VR	本技術は、劣化したコンクリート構造物上面の断面修復材で、従来は超速硬化コンクリートで対応していた。本技術の活用により、耐久性・付着性・低収縮性が改善され、品質の向上が図れます。また、従来技術に比べて、ハリ量が減るので、環境、経済性の向上が図れます。	材料	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工						供給可能地域:全国(工場所在地:大阪府、納期:2~7日程度)	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-170058%20	
9	湿潤面対応急速硬化補修材	KT-170061	A	本技術は、湿潤状態の施工面に適用できる急速硬化・高強度の補修材で、従来は、エポキシ樹脂系断面修復材で対応していた。本技術の活用により、湿潤の施工面であっても接着性が良く、短時間で硬化・強度が発現するため、工程の短縮および施工性、経済性等の向上が図れる。	製品	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工						全国供給可・生産拠点:兵庫県たつの市・販売拠点:東京都港区	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-170061%20	
10	速硬化ポリマーセメントモルタル「U-リペアパッチEX、U-リペアライトEX」	TH-180003	VE	アルミナセメントを含む数種類の結合材を用いた速硬化のポリマーセメントモルタルであり、早期開放及び工期短縮が望まれるコンクリート構造物の補修工事全般に役立つ断面修復材である。	製品	コンクリート工	コンクリート工	モルタル工						通常在庫品 数量により受注生産となるため、2週間~1か月の納期が必要となる場合があります。	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=TH-180003%20	
11	エマルジョン型ポリマー乾式吹付け工法	KTK-180004	A	本技術は、コンクリート構造物の断面修復における乾式吹付け工法で、従来は湿式吹付け工法で対応していた。本技術の活用により、施工時の粉塵の発生が抑えられ、且つ優れた厚付け性と長距離圧送性を有するため、経済性及び施工性が向上し周辺環境への負荷を軽減できる。	工法	港湾・海浜・空港	維持補修工	コンクリート補修工	断面修復					全国に36社の工法協会員により運営し全国に供給可能(2023年3月末時点)。	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KTK-180004%20	
12	セルガード	KT-180077	A	本業務は、コンクリート構造物を補修する技術で、従来はポリマーセメントモルタルにより補修を行ってきたが、凍結や塩分の侵入で、再劣化が起り易かった。本技術の活用により、再劣化を防止できるようになり、コンクリート構造物の耐久性の向上が図れる。	材料	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工						供給可能地域:全国	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-180077%20	
13	高耐久型断面修復工法「タフショットクリート工法」	QS-180044	A	本技術は、独自の材料を配合した「ポリマーセメントモルタル」を使用することで繊維の緻密化を可能とし優れた強度・耐久性を有するため、ライフサイクルコストの低減が可能となり、厚付けにも優れるため工期短縮による経済性の向上が期待できる。	材料	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工						供給可能地域:全国	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-180044%20	
14	塩分吸着剤 乾式吹付け工法	KT-190023	A	本技術は、塩分吸着剤を混合したポリマーセメントモルタル(POM)乾式吹付けによる断面修復工法で、従来は吸着剤を混合しないPCM乾式吹付けであった。本技術の活用により有害な塩化物イオンを吸着して無害化するため、さらなる高耐久性断面が形成でき品質の向上に繋がる。	工法	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工						吹付け機:国内55台(うち九州5台)	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-190023%20	
15	パワーグラウト(自己治愈補修材)	QS-190036	A	コンクリート工における断面補修工事、狭隙部への打設に使用するモルタル材により自己治愈成分をフミンクスした材料で 施工後に発生したひび割れに水分が供給されることにより膨潤剤の作用でひび割れが自己閉塞する機能を有した高流動性モルタル材で 構造物保全が期待できる。	材料	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工						受注生産につき納入まで2週間を要する	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=QS-190036%20	
16	耐塩害タイプポリマーセメントモルタル「U-リペアパッチCT」	CG-200019	A	塩化物イオンが拡散しにくいポリマーセメントモルタルであり、周辺環境の塩分濃度が高いコンクリート構造物の補修工事においても、鉄筋腐食を抑制して長寿命化できる断面修復材である。□	材料	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工						受注生産品	https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-200019%20	
17	亜硝酸リチウム併用型断面修復工法「リハリ断面修復工法」	CG-220003	A	本技術は、塩害・中性化によって劣化したコンクリートを亜硝酸リチウムを混入した断面修復材を用いて補修する工法である。断面修復材に用いる亜硝酸リチウムがコンクリート中へ浸透拡散し、鉄筋の不動態皮膜を再生することで高い防錆環境を構築する。	工法	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-220003%20	
18	ジオポリマー技術を用いたコンクリート構造物用断面修復材(GP MONDO K)	GS-220023	A	本技術はコンクリート構造物の断面修復工(左官工法)に関する技術である。酸性環境下の断面修復工(左官工法)において、耐久性を向上させる補修材で、従来はポリマーセメントモルタルで対応していた。本技術の活用により、維持補修の頻度が減少する。	工法	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=GS-220023%20	
19	RFグラウト	KT-220206	A	本技術は、鉄筋コンクリートの断面補修材に塩分浸透を抑制する混和材を添加したポリマーセメントモルタルで、従来は、塩分浸透抑制剤を含まないポリマーセメントモルタルを用いていた。本技術の活用により、耐塩害性を発揮し鉄筋の防錆効果の更なる向上が図れる。	材料	コンクリート工	コンクリート工	型枠工 一般型枠工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KT-220206%20	
20	OPJ-L(コンパクトジェットーL)	CG-230003	A	従来は超速硬化コンクリートなどを使用していた。本技術は断面修復材料として用いる低弾性アタックス改質超速硬化コンクリートで低収縮性と優れた物質浸透抵抗性を有している。道路橋コンクリート床版を始めとするコンクリート構造物の耐久性向上が期待できる。	材料	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=CG-230003%20	
21	ポリマーセメント系無収縮グラウト材「フレックスDXP」	KK-230050	A	本技術は、無収縮モルタルとポリマーセメントの性能を併せ持つコンクリート構造物の断面修復用グラウト材で、従来は、汎用無収縮グラウト材で対応していた。本技術の活用により、乾燥ひび割れの抑制や塩害に優れ、塩分浸透が抑制されるため、品質の向上が図れる。	材料	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-230050%20	
22	Hi-SPEOシール工法	KK-230060	A	本技術はひび割れが発生したコンクリート床版の補修における高浸透型水性エポキシ樹脂を使用した防水機能を持つ下地補修工法で、従来はウォータージェットによる劣化部除去及び断面修復工法で対応していた。本技術の活用によりコスト削減が図られ、品質の向上が期待出来る。	工法	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-230060%20	
23	断面修復材の施工間隔の短縮を図る「プロクック工法」	KK-230077	A	本技術は、断面修復材用ポリマーセメントモルタルに凝結促進材を添加し、施工間隔を短縮する工法で、従来は凝結促進剤を添加しない左官工法で対応していた。本技術の活用により施工性の短縮及びコントロールが可能となるため、工期短縮、経済性及び施工性の向上が図れる。	工法	道路維持補修工	橋梁補修補修工	断面修復工							https://www.netis.mlit.go.jp/netis/pubsearch/details?regNo=KK-230077%20	